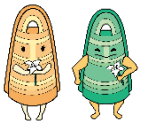
おおいしだより



大石まち協キャラクター
どうたく TWINZ
ゆりちゃん&たっくん

第56号
令和4年3月23日発行

発行　大石地区まちづくり協議会・大石コミュニティセンター
編集　広報紙編集委員会

坂井市春江町上小森 6-12　TEL／FAX(0776)72-0002
まち協ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www4.fctv.ne.jp/~ohishimk/
大石ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰｱﾄﾞﾚｽ　ohishi-cc@city.fukui-sakai.lg.jp

まち協HPは
こちらから

大石地区の人口・世帯数		
（令和４年２月１日現在）		前号比
世帯数	1,369 戸	-1
人　口	4,076 人	-19
男	2,015 人	-13
女	2,061 人	-6

北京冬季オリンピック 2022　男子スノーボードクロス出場

高原宜希（たかはら　よしき）さん ～大石から世界へ～

31名が出場し、1回戦をみごと1位で通過。続く準々決勝で惜しくも転倒。福井県勢の冬季五輪は男女全競技を通じて初めての快挙でした。

母校の大石小学校正面に、横断幕を設置し地区をあげて応援しました。

感動をありがとう！

◆大人の遠足会（バスガイドと行くバスに乗らない修学旅行）

健康・福祉部会　　10/24（日）

新型コロナの感染拡大がなかなか収まらない中、実際バスの企画が難しいので、本年度は大石コミセンで一体感を感じながらバス旅行の気分に浸っていただきました。27 名の参加者はなつかしい思い出に浸り、おみやげまでもらい、皆さん喜んで帰宅しました。

◆ゆりプランター作り

花・環境部会　　10/29（金）

大石小学校3年生を対象に、今年もゆりプランターを作りました。50 個のプランターを作り、小学校に設置しました。

◆環境美化活動

全体事業　　11/7（日）

空き缶拾い、コミセン前花壇の整備、ゆりプランター作りを行いました。1時間程度の空き缶拾いの後、花壇にゆりの球根とパンジー等の花苗を植え、会場をゆりの里公園に移し、ゆりプランターを作りました。空き缶拾いと花壇は、区長会とまち協の合同作業、ゆりプランター作りは、花・環境部会とまち協の委員で行いました。

◆三世代交流事業（スティックリング・わなげ大会）

教育・文化部会　　11/14（日）

今年は、大石コミセンの大ホールを会場に、三世代交流事業を行いました。三世代35名の参加がありました。

◆カンタケ菌床植込み

総務・広報部会　11/17(水)

越前カンタケは、福井県総合グリーンセンターで開発したきのこです。香りや歯ごたえが良く、鍋物や炒め物などに使えます。植込んだプランターは2か月程度で収穫でき、22名の参加者たちは家に持ち帰りました。皆さんおいしく召し上がったことでしょう。

◆門松づくり

教育・文化部会　１２／１１

例年人気のある事業で今年もたくさんの参加がありました。

花市場の渡辺さんの指導のもと、新しい年を迎える門松づくりに取り組みました。色とりどりのきれいな門松が出来上がりました。

令和4年　大石地区区長会　役員を紹介します

会 長	リリータウン区	小原	富士抜さん
副会長	木部西方寺区	竹内	康敏さん
副会長	上小森区	中田	儀栄伸さん

よろしくお願いします

コミセンだより

放課後子ども教室

楽しいマジック＆かんたん工作
12/24(金)

お米が増えるマジックとサンタのおめんをつくる工作をしました。個性あふれるサンタができました。

謎解きゲーム

謎解き期間中(12/21～28)センター内に掲示したクイズにチャレンジ!!子どもたちは苦戦しながらごほうびをGETしていました。

大石歴史探訪⑥　「汗かき地蔵」（西長田）

西長田ゆりの里駅近くの三叉路に薬師堂が建っています。中には高さ約九十センチメートルの石の地蔵様が安置され、室町時代に作られたと考えられています。不吉なことが起きる前に地蔵の表面が濡れ、汗をかいたようになると伝えられており、昭和二十三年の福井地震の際も汗をかいたと言われています。災厄を予見し教えてくれるという伝承を持ち、地域で「汗かき地蔵さん」と呼び親しまれており、坂井市内で唯一の有形民俗文化財です。

昔からの言い伝えによると、昔々薬師堂近くの田んぼの中から貴いお姿の地蔵さんが出てきたとか、空から降ってきたとか言われています。また、この地蔵さんをお宮さんまで運ぼうとしましたが、途中の橋のところで動かなくなったため、元の場所に戻しお堂を建てお祀りしたそうです。

なんでもこの村に災難があると思われるときには、必ず全身に油のような汗をかかれて、それがひたひたと台座の上にたまるといわれ、村人はこの地蔵さんの様子を見て災いを予感して用心してきたといいます。

平成九年十二月七日朝、毎日お参りしている区民の一人が地蔵さんがびっしょり濡れているのを見つけました。布でふき取っても『汗』のような水滴が次々と噴き出し、聞きつけた住民数十人が集まる騒ぎとなりました。濡れていたのは地蔵が浮き彫りになった部分だけで、周囲や背面の石は乾いたままでした。

雨漏りをした形跡もなく、いたずらで水をかけたとも考えられないものでした。「単なる結露だろう」という声もありましたが、結局僧侶に「地蔵の心配」を取り除く経を上げてもらうことにしました。すると不思議なことに翌日には水滴がぴたりと止まり、無事何事も起こりませんでした。

西長田区では、この地蔵さんを見守るため、昔から宮守（薬師守）を置いて、花を供えたり、掃除をしたりして大切に保存に努めています。また、お地蔵様の供養として、毎年七月二十四日に「地蔵祭り」を開催します。模擬店も出店し、賑やかな歓声に包まれます。そのような中で、地蔵様の前には、白飯、酒、水、菓子などの供物が並び、お堂内では氏子代表や区代表らが立会い、坂井町下兵庫の大善寺住職による法要が行われます。地蔵祭りは子供の祭りです。お地蔵様の由来を語り写生大会を行い「汗かき地蔵さん」は子供たちの笑い声に包まれます。

◆汗かき地蔵看板設置

総務・広報部会　12/23（木）

西長田区にある「汗かき地蔵」の由来を示す看板を、このほど設置しました。総務・広報部会と小林重信区長が協力し制作、薬師堂の壁面に取りつけました。文面は、20年近く宮守を努める小林敏則さんが担当しました。なお今回の「大石歴史探訪⑥」は、看板の記述そのままです。

コウノトリ見守り事業として木村先生に原稿を依頼しました。

コウノトリたち 今年は 来る？

福井県自然環境課　獣医師　木村 美貴

自己紹介

こんにちは。県庁のコウノトリ担当、獣医師の木村と申します。実は私は江留下出身で、今も実家から武生のコウノトリ飼育施設まで通勤しています。2019年にコウノトリのお仕事で大石地区に通うことになって、大変感慨深いものがありました。

コウノトリとは

コウノトリは日本国内では1971年に野生絶滅していますが、2005年に放鳥が開始され、現在はその子孫も合わせて約250羽にまで増えました。それとは別に、動物園などで約190羽が飼育されています。原則全ての個体に足環と個体番号と戸籍が作られています。

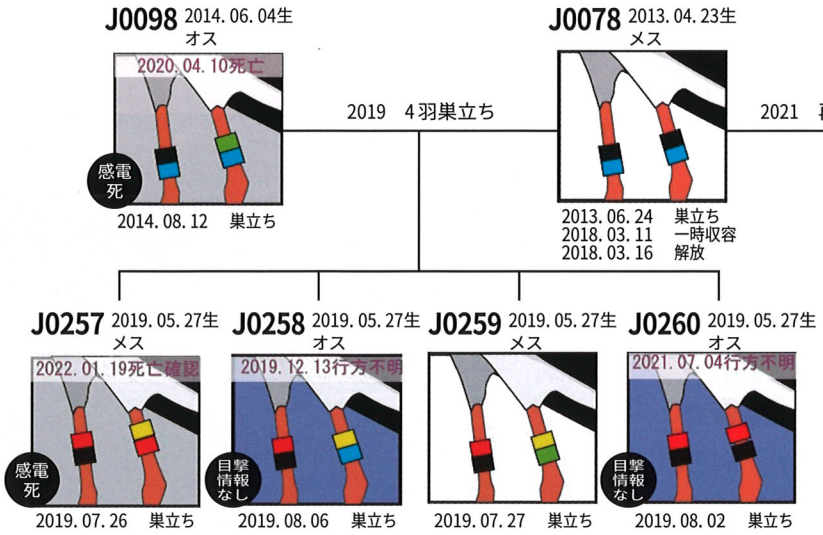
ツルによく似ていますが、ツルの一種ではなく、遠い親戚でもありません。完全肉食性で、ドジョウやカエル、ヘビなどが大好物です。生まれたその年には親鳥との縁は切れ、独り立ちしますが、まだまだ子供。ゆるいサークルのような群れになったりならなかったりして放浪の旅に出ます。3歳頃になってやっとおとなになり、繁殖を開始します。強い絆の一夫一妻制ですが、卵を産んで、初めてペア認定されます。若いオスとメスが一緒にいるだけではペアとは言えません。一度ペアになると基本的に相手を変えませんが、孵化しなかったり、子育てに失敗したりすると別れることもあります。一度ヒナを巣立たせたペアが死別以外で別れた例は、2022年春現在はありません。そしてトラブルが無い限りは、繁殖に成功した場所を毎年選びます。

コウノトリと福井県の歴史

野生絶滅前、国内で最後にヒナが孵化したのは、コウノトリで有名な兵庫県ではなく、1964年、福井県小浜市でのことです。旧武生市では1970年に嘴が折れたコウノトリが飛来し、保護されています。

コウノトリが大石に来た

2019年にコウノトリペア（個体番号J0098オス×J0078メス）が大石地区にやってきて営巣するという大事件が発生しました。このペアは、前年は越前市大塩町の人工巣塔で初産卵したものの、初めてなので勝手が分からず抱卵放棄してしまったペアでした。秋になって解散した後、2月末に合流して、今度は坂井市にやってきたという経緯です。



（兵庫県立コウノトリの郷公園　足環カタログより）

巣立ち間近のヒナたち

大石ペアってその後どうなったの？

生まれた4羽のヒナにはJ0257～J0260の個体番号と、それに合致した色の足環が着けられ、秋には全て無事に親離れしました。うち3羽は韓国まで、残る1羽は島根県まで移動しています。しかし翌年の2020年、父鳥J0098が電線に触れて感電死、未亡人となったJ0078メスは2021年に越前市下中津原町でJ0161オスと再婚、3羽のヒナを巣立たせました。

子供たちのその後ですが、J0258オスとJ0260オスは最後の目撃から1年以上が経過したため、行方不明扱いになっています。そしてJ0257メスは今年1月19日に、電線衝突によると推定される死亡が確認されました。生存している子供はJ0259メスのみとなりました。今年で繁殖年齢に達しますが、出身地に戻ってきて繁殖するとは限りません。兵庫県出身である大石ペアがそうだったように、全く縁もゆかりもない場所を選ぶこともあるのです。そうやって繁殖地を広げていきます。

コウノトリの感電って多いの？
北陸電力さんの対応は？

コウノトリの感電死は昔から発生していました。小浜市で1965年に感電死した個体は、日本で最後にヒナを巣立たせた親鳥でした。大石で営巣した電柱はたまたまバイパス工事が可能な立地だったのですが、そうでない場所は停電のリスクと、コウノトリにとっても感電死の危険があるので枝を撤去せざるを得ません。その代わり、北陸電力さんは何か所もの営巣可能な電柱に枠を付けて巣台のような構造にしてくださっていました。コウノトリの命を守るために最も骨を折って下さっていたのは北陸電力さんだったのです。

大石地区の素晴らしかった点

【前触れのない不便に耐えた】電線バイパス工事のための停電、フンの掃除や防除、観察場所の提供、データ取りへの協力、児童の安全の確保など、大変なご苦労があったことと思います。心から御礼申し上げます。【餌付けをしなかった】100%、餌環境が良かったおかげでヒナ4羽を育て上げた証明ができました。【愛称を付けなかった】コウノトリはペットではなく、野生復帰すべき野生動物です。ペットの愛護ではなく野生動物の保全として見守ってくださった事は、極めて先進的で素晴らしいことです。

また大石に来る？その時の注意点は？

元大石ペアのJ0078メスは再婚しました。越前市での成功体験があり、今年も同じ巣塔に戻ってきているため、大石に戻ってくる可能性は低いでしょう。しかしコウノトリは不思議なもので、「イイ場所」というのは目ざとく見つけて降り立ちます。大石が再び別のペアに選ばれる、その可能性は大です。

コウノトリが再び大石を繁殖地に選んだら、皆さんにお願いしたいことがあります。

【離れて観察すること】
150mくらいの距離を保ちましょう。

【大声で呼ばないこと】
呼んでも来ません。巣塔の下で叫ぶと、ますます寄り付かなくなってしまいます。

【落ちた巣材・羽を持ち帰るときは消毒】
病原体がいっぱい付いています。持ち帰りたいときはハイターや石鹸で消毒しましょう。

【いのちだいじに】
感電の危険がある電柱に巣材を運んでしまった時は、撤去せざるを得ないのです。繁殖よりも命と考えて、長い目で見守ってくださいね。

大石ペアに甘えるヒナ